

第4次健康都市いずみ21・食育推進計画策定にかかるインタビュー調査結果

1. 目的

第4次健康都市いずみ21計画・食育推進計画を策定するにあたって、市民の健康づくりや食育活動を支えている「担い手」を対象に、地域での健康づくりや食に関する活動の取組状況や課題、今後の活動の展開等について把握することを目的に実施した。

2. 対象者、インタビュー内容

対象者		インタビュー内容
担い手	ヘルスアップサポーターいずみ	①健康づくりや食に関する活動内容 ②活動していて「よかった」「うれしかった」と感じる
	食生活改善推進協議会	③活動の原動力、何がモチベーション維持に繋がっているか ④活動に取り組むなかで困っていること、必要な支援など
	和泉市農業後継者の会	⑤健康づくりや食育推進に効果的と思われる取組（アイデア） ⑥女性の健康づくりにおいて、課題に感じていることや必要な取組、アイデアなど ⑦「歩きたくなるまちづくり」に向けて、自分たちができることなど

3. 対象者、まとめ

対象者	まとめ
ヘルスアップサポーターいずみ	・短時間でできるストレッチや食事バランスをチェックできるシートなど、もっと広く市民に知ってほしいため、情報発信の方法等考えることが必要となっています。 ・時間が取れないことが運動しない理由になっているケースがあるため、短時間でできる運動の紹介等、運動習慣の定着に向けた取り組みが求められます。 ・会員の高齢化も進んでおり、活動や役割を次の世代に引き継いでいく必要があるが、なかなか難しく、SNSでの発信など、周知方法を検討する必要があると求められます。また、無理なく参加できる回数にしたり、年齢や内容の幅を広めるなど、参加のハードルを下

	げる工夫が必要となっています。 ・開催しているイベントは平日の昼間が多く、学生や社会人は参加しづらい状況であるため、参加率向上のための工夫が必要となっています。 ・人との交流や新しいことへの挑戦など、活動する上での原動力、モチベーション維持につながっており、支援できるような仕組みづくりが必要となっています。
食生活改善推進協議会	・担い手の高齢化や減少が課題としてあがっており、担い手に関心を持ってもらえるような情報発信が必要となっています。 ・21 校区ごとにメンバーがいて、こまめに地域で活動できれば、活動の幅も広がり、食育や食生活改善推進協議会の認知度につながることを期待されます。 ・他のメンバーと活動することで、自分と違った目線での「食」に関する考え方を聞くことができ、交流することも楽しみのひとつになっていることが伺えます。 ・「食育」ということばの認識をどの世代にも身近に感じてもらえるように伝えていくことが必要となっています。
和泉市農業後継者の会	・園児の芋ほりの収穫体験や小学生対象に田を貸して米の田植えから稲刈りまでの体験を実施したことがあり、こどもたちが汚れを気にせず土に触れる姿を見たり、料理に使ったなど報告を聞くことが活動の原動力につながっていることが伺えます。 ・マルシェや農業祭で野菜を提供したり出店したりする集まり自体が消費者と接する機会となっており、和泉市の農家を盛り上げていくことや和泉市の野菜を周知する機会を持つことが必要となっています。